

2016.8

News Letter 04



ラボ活動報告『町の記憶/ストーリーを呼び起こそう』編 第3弾

これまでラボでは、6月に奈古地区のフィールドワークを通じて「まちを面白がる視点」を学び、7月に6軒のお宅を訪ねて、「家にまつわるストーリーや周辺地域の変化、暮らしの変遷」をお伺いしてきました。今月のラボは、7月にお話をお聞かせくださった方を招いて、発表会を行いました。1軒1軒にかけがえのないストーリーがあることがわかり、研究員一同、興味深く聞き入りました。

21世紀の
暮らし方
研究所



日時 >> 2016.8.27 Sat 13:30-16:30 参加 >> 31名（町内21名、町外10名）
プログラム >> 班別発表会 --- ミニワーク

ラボが始まる前に
そうめん流し
交流会
を開催！

毎月、町内外から 30 名前後の参加があるのが、私たちのラボの特徴。せっかくなので、もっとゆっくり交流を深めよう！ということで、夏らしくそうめん流しを行いました。
この日のラボの会場である、八代本店の前に椅子を並べ、竹を渡し、いざそうめん流し！風の抜ける通りで、有志が集まったメンバーと談笑しながら食べるそうめんは格別でした。八代本店前の見通しの良さを改めて実感し、「この通りにこうやって定期的に人が集まれるようになるといいね」といった声も聞かれました。

「そうめんを食べる」という何気ないことでも、みんなで外で食べると特別な時間になりますよね。日常的にしていることを外に持ち出して誰かと楽しむ。この視点が空き家活用のヒントになります。



研究員が掘り起こした 6軒のお宅のストーリー発表会

2 班の発表

八代家の の ストーリー

＼ お話を聞かせてくださった方 ／

八代定治さん

＼ 私たちが取材しました ／

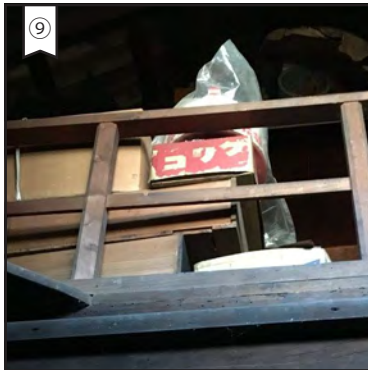
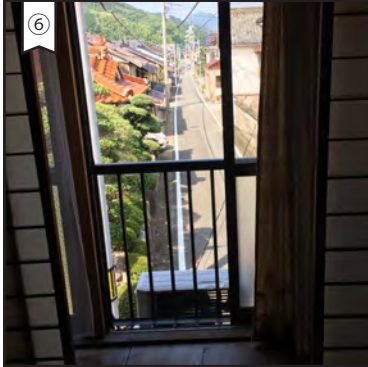
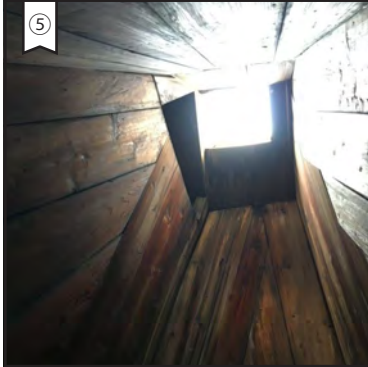
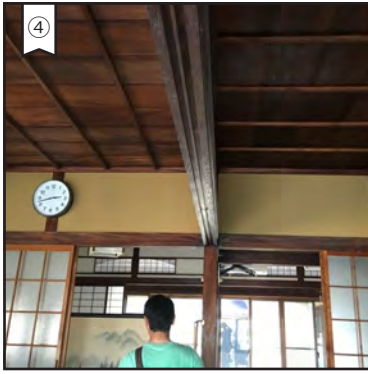
阿座上友紀 阿武みどり 水津初美

杉本沙那 茂刈立也 山口大介



① 元々、中村屋というお宅の 1/4 を買い取り、和菓子屋さんを開業。そのため、家の形状が面白いところでぶつ切りになっています。

② 当時販売していた蒸気まんじゅうやアイスキャンディは、町のソウルフードだったそうです。少し出張ったところは、その名残です。



③ 外堀の一部がカットされている理由…それは、以前は表通りがバス道りだったため、バスが曲がりやすいようにと、カットしたからだろう。

④ 土間の天井は、右側と左側の天板の向きが違います。昔ながらの珍しい作りなので、今後残してもらえたらと思います。

⑤ 2階に通じる階段の天窓は、大正2年に建物が立って以来、一度も交換したことがなく、天災にも耐えてきたガラスです。雰囲気が良いですね。

⑥ 2階からはレトロな雰囲気の町を一望できます。町の方も「ここからお祭りを見てみたい」「町並みを見たい」といってしゃるそう。

⑦ 昭和34年から給食のパンを製造。奈古小・奈古中合わせて1200個のパンを家族総出で朝3時から作ったそう。積雪の多い福賀には役場のジープミュゼットで運搬！

⑧ 裏手にパン作りの工場とご自慢の商売道具が今でもしっかり残っています。道具は大事にしてくださる方に譲りたいとのことでした。

⑨ 蔵では、おじいさんの代から和菓子を作られており、今でも古いまま残されています。当時を思わせる古い「グリコの箱」なども残っていました！

⑩ 現在の土間は、お店をやっていた頃は陳列ケースが置かれていました。今は、地域の皆さんの憩いの場になっています。

八代家の ストーリー を聞いた 感想

- 建築当初の103年前から変わらない天窓が素晴らしい。
- 八代さんのパンに対する思い、道具に対する思い入れが印象的だった。
- 給食のパンを毎日1,000個以上もこの小さな工場で作っていたなんて！

5 班の発表

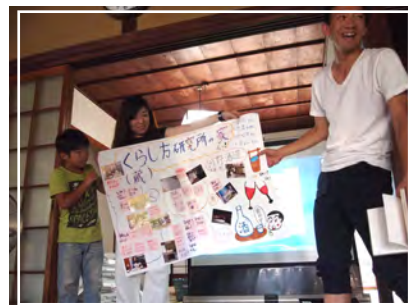
河野家 の ストーリー

／ お話を聞かせてくださった方 ／

河野とみ子さん

／ 私たちが取材しました ／

田中輝 福田珠代 山本直



班のみなさんがお休みだったので
石田さんが代わりに発表！

タイトル『美しく残す家』



①② 河野さんのお家で、古い写真を見ながらお話をお聞かせいただきました。その中で、「人」「お酒」「建物」が印象に残りました。

まずは「人」。河野さんは「美しく残す」ことを大切にされていました。それはとみ子さんご自身が古いものが好きで、その抜群のセンスで大切にされているからでした。

ライフワークとして、柿渋で染めたバッグを作るなど、ものづくりをされているそう。

また、他の趣味として、フォークダンスを踊られていたり、庭の中でぶどうを栽培されています。

③ そのセンスの良さは、河野さんご自身の佇まいからも伝わってくるようでした。

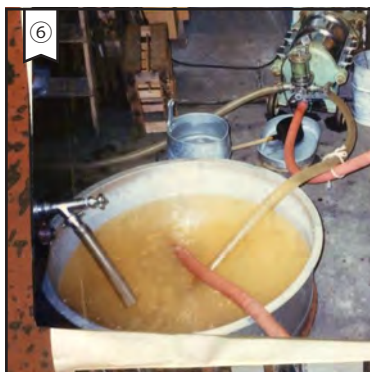
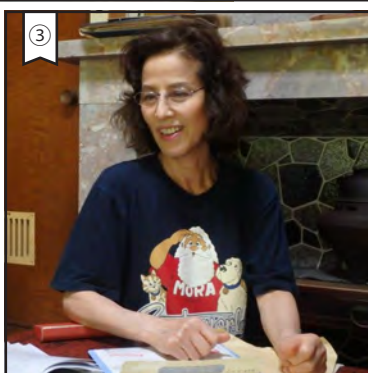
④⑤⑥⑦ つぎは「お酒」です。

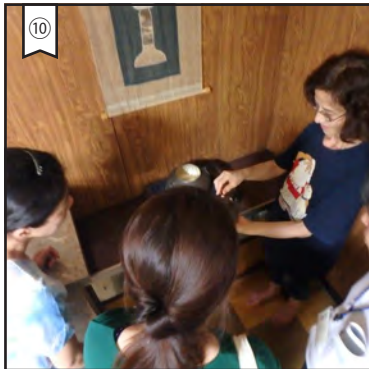
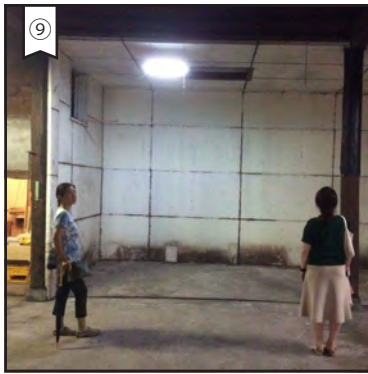
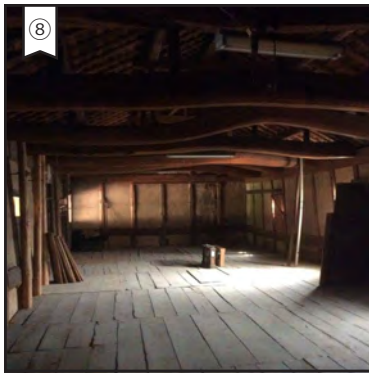
河野さん宅は昔からお酒を作っていたので、大きな酒蔵があります。

黒・茶・白の液体はお酒です。雑味等を取るために炭をいれるので、まずは黒くなる。その後、ろ過を進める過程で茶色になり、綺麗になるにつれて白色になるのだそうです。

⑧⑨(次ページ) 蔵はこれまで、酒蔵コンサートをして地域の方に使ってもらったりしています。建物を活用したり見学したりするなど、使いながら残していることが、素晴らしいと感じたそうです。

最後に、「建物」です。
国道から奈古にきた時に目につくのが河野酒造の煙突ですよ。





中には、立派な梁があり、部屋数が多いです。渡り廊下もあり、総理大臣が泊まった部屋もあるそうです！そのような色々なエピソードがあることが、河野家ならではの魅力です。

「二階がとても広かった」ことや、「建物自体がとっても綺麗に残されていた」などという感想が挙がっていました。

⑩⑪ 河野家に伺った感想を班でまとめた際に、「人」に関する印象が強かったことに班のメンバーは気がついたそうです。

すなわち「人づくり」は「まちづくり」。「まちづくり」は「人づくり」であると、メンバーの一人の直さんはおっしゃっていました。

河野家の ストーリー を聞いた 感想

- 古いものを、美しく残す。なるほど深いですね。素敵です。
- 住む人、魅力的な人がそこにいることが大切だということ。
- 人づくり＝まちづくり！

6 班の発表

水津家 の ストーリー

＼ お話を聞かせてくださった方 ／

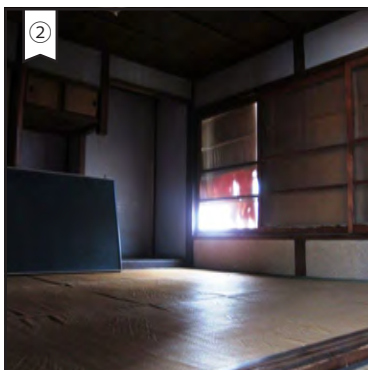
水津初江さん

＼ 私たちが取材しました ／

國吉洋佑 正代三友 水津はるみ

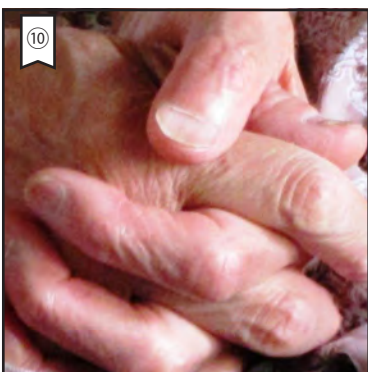
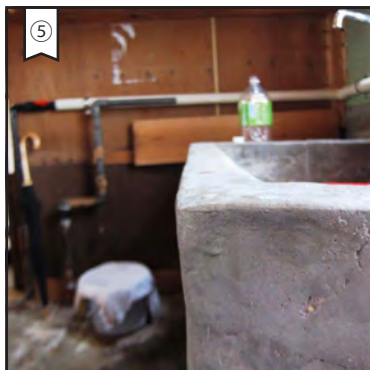


タイトル『朝日丸のおかみの家』



① 初江さんは、ご両親の「兄弟が多くいるところの方が助けてもらえるから」という話を受け、水津家へ嫁入りをされたそうです。

② 二階は、襖を外して宴会場としてよく利用していたそうです。嫁いだ時は三日三晩結婚式が続いたそうです。結婚式以降は家のことにひたすら従事する日々でした。



③ 13人家族の家事育児に加え、大船の船長の女将として、9人の船員の世話をされました。当時に今よりも急な階段を何度も上り下りしながら料理を運んだそうです。

④ 電話のない時代。船長が漁に出るぞという、初江さんは9人の乗組員の家を昼夜問わず一軒一軒起こしてまわっていたそうです。

⑤ 後ろに写る台所では、まきをくべて、お風呂やご飯をたく。全てが手作業でした。

⑥ 毎月ラボの活動でお借りしている部屋の半分ぐらいは縁側だったそうです。今は床がある部屋も以前は土間で、4斗樽を置いてポンプで水を汲み、踏みつけ、大根などのお漬物を作ったそうです。

⑦ 以前は家とは別にお風呂小屋のようなものがあり、トイレも別でした。その後、寒くないように家の内部に付け替えたそうです。

⑧ この辺りでよく横になっていた義理の祖母のお世話が嫁としての最初の仕事。義理の祖母や母を看取ってきました。自分でも本当によくやったと思われるとのこと。

⑨ たとえ義理の家族であったとしても優しくしてきたことが今の自分が幸せでいられる理由だと初江さんはおっしゃっていました。

⑩ 大家族の嫁、大船の船長の妻として、深く暖かい歴史を紡いできた初江さんの手。その歴史とともにあるこの家は『朝日丸の女将の家』という名前がぴったりだと感じました。

水津家の ストーリー を聞いた 感想

- 大船の奥様は想像以上に大変ですね。昔の人は我慢強い。
- 水甚は、初江さんが家族を看取り、船長の妻として大事にされてきた家。
- 初江さんの手の写真が印象的だった。

4 班の発表

水津家の ストーリー

＼ お話を聞かせてくださった方 ／

水津肇・君代さん

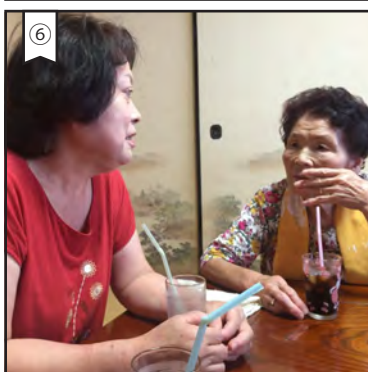
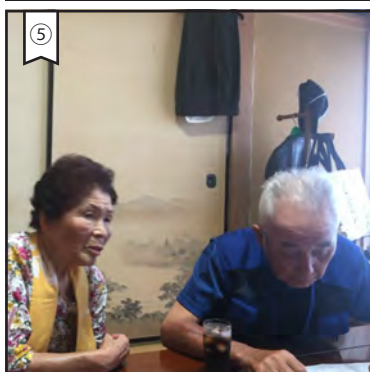
＼ 私たちが取材しました ／

林知奈実 小田慎也 藤村久美子



班のみなさんがお休みだったので
石田さんが代わりに発表！

タイトル『仲間』



① 肇さんは 50 年以上漁師をされています。30 代の頃は、昼間はあわびをとって 1 キロ 1 万円以上していたそうです。夜はイワシやイカの漁に出て寝る間も無く働いていたことがあったそうです。
漁から帰ってくると、「帰ってきたぞ！」という放送が流れて一斉に奥様方が仕分けをしに市場まで出てきたそうです。

②③④ 「よく稼いでよく遊んだよ」という話も挙がりました。1 日に 10 万円から多い日は 40 万円稼ぐという時代があったそうです。

その稼いだお金はその日のうちにパチンコや演芸館や飲み屋で使っていたそうです。宵越しの銭はもたないというのが漁師の生き方のような感じがします。

当時はパチンコ屋さんが浜と西に 5 店舗あったらしいです。
写真③で、赤い丸シールを貼ってあるところがパチンコ屋で、昭和 30 年ぐらいまでであったそうです。青い丸シールを貼っている、ちょうど今の信金があるところに演芸場があったそうです。
この地区で娯楽のある生活を送ることができていたことに驚きました！

⑤⑥ いとこ煮の話も出てきました。いとこ煮はこの辺が元祖で、小豆の煮方が味を決めるそうです。水津さんは、松乃家さんのいとこ煮がお好みだそうです。

最近ではいとこ煮を継ぐ人がいなく、食べられなくなってしまったのが寂しいそうです。
味の継承も大事になってくるのだろうなと感じました。

水津家の
ストーリー
を聞いた
感想

- 奈古で衣食住が完結し、パチンコや劇場などの娯楽もあったとは。
- よく稼ぎ、よく遊ぶという漁師の生き方に驚いた。
- 味の継承も大事だということが印象に残った。

3 班の発表

水津家
の
ストーリー

＼ お話を聞かせてくださった方 ／

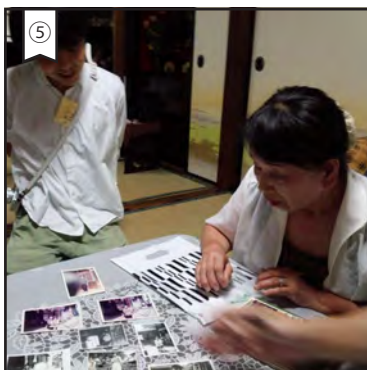
水津浩子さん

＼ 私たちが取材しました ／

伊藤功 井上豊美 小田彩記
児玉健太 高橋伸匡



タイトル『磁石の家』



①②③ 浩子さんのお父様は鹿島への渡し舟「阿胡丸」の船頭さんでした。その頃にお母様が釣具店をはじめられ、大変繁盛したそうです。当時の水中眼鏡や浮きを見せてもらいました。

④ その後、パン屋、不二家さん、アイスクャンディーなどを売る、よろず屋に変わりました。

お店の屋号は「ジンダヤ」。お祖父様の甚七さんにちなんで、浩子さんの実家に付いた屋号ですが、馴染みが薄かったので、お店の方を「ジンダヤ」にしたそうです。当時のお店の周りは銀座のような賑わいだったようで、日常のお買い物は全て事足りるような通りだったそうです。お正月は身動きが取れないこともあったとか！

⑤ 他にも、お父様が消防車も直せるような技術者であったこと、船の形に似ている大島に爆弾を落とされたこと、若い人たちのために合コンをセッティングされていたことなど、驚く話をたくさん聞かせてくださいました。

⑥ 当時のお店の看板の位置なども教えていただきました。



⑦⑧ 浩子さんはおもてなし上手。私たちにも、麦茶や手作りのコーヒー、お菓子を提供してくれたり、楽しい話をしてくれました。

お店の形や周りの環境が変わっていても、浩子さんの明るさに惹かれて人が集まる。そんな水津家に、私たちは『磁石の家』と名付けさせていただきました。

**水津家の
ストーリー
を聞いた
感想**

- 家業の変化、様々な仕事の思い出がつまった家なのですね。
- 家の形や環境が変わっても、浩子さんの人柄は変わらない。
- 「磁石の家」浩子さんがいるから人はひきつけられる。素晴らしい発想！

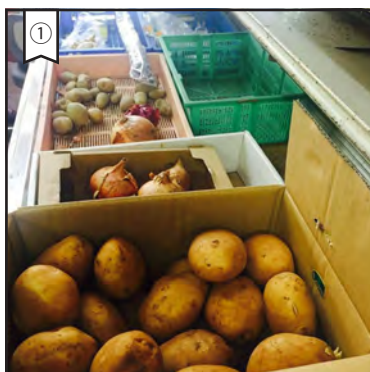
**1 班の発表
若松屋家
の
ストーリー**

＼ お話を聞かせてくださった方 ／

若松屋玲子さん

＼ 私たちが取材しました ／

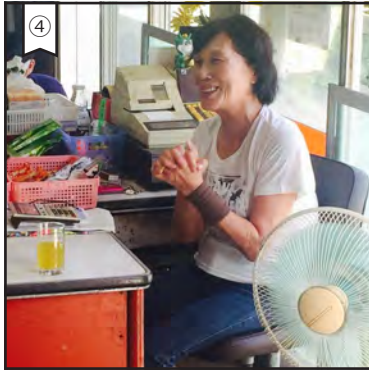
梅田萌子 藤枝久一 古河和子
俣野有紀 山本悠理



①② 初代は豆腐屋さんから始まり、徐々に魚や野菜や調味料の量り売りをするようになったそう。近くのレンガ関連の工場勤めの方々が、仕事終わりに惣菜などを買われたり、向かい側にあった酒屋さんに酒の肴を持ち込んで一杯やっていかれたそうです。支払いはほとんどツケ払いで、給料日に一括払いだったとか！



③ 先々代のお祖母様が特殊な力を持つ方だったそうです。近くの造船所の職工さんたちの目に入ってしまった木屑を舌で舐めてとったり、人の顔に出来た青あざに、蕁をつけておまじないで治してしまっていたとのこと！
いろんな方が、お祖母様の元へよく駆け込んで来られたそうです。



④ 「魚はさばかなくていいよ」と言われてお嫁に来たけれど、当然そんなことはなく…（苦笑）朝の6時から夜の9時までには仕事で年中無休。子供会などで町外に出るのが唯一の楽しみでした。

⑤ お店の修理はせず、あと10年頑張りたいと玲子さん。若い人に入ってきてほしいけれど、海辺密集地ならではの問題も気がかり。

若松屋家の ストーリー を聞いた 感想

- 豆腐屋さんだったとは。「若忠」という屋号は今でもよく聞きます。
- 365日商売をしていたので、極々たまに町外に出る楽しさと、煙突を見ると町に帰ってきた気分になったというエピソードが印象的だった。



どのご家庭にも、ユニークで貴重なストーリーがありました。ストーリーを知っていると、見えてくる町の風景が変わることが実感できましたね。情報が一つ加わるだけで、その地域を身近に感じ、暮らし方を具体的にイメージできる。「思い出不動産」プロジェクトの原点はこの感覚にあります。今後はWEBサイト作りが進みます。実際の記事作りに向けて、これからも阿武町のストーリーの掘り起こしと、発信のスキルアップをしていきましょう！

発表会後に ミニワーク 「私の好きな 5つの時間」

自分の好きな時間を、「ひとりで」「家族と」「友人と」という軸と、「家の中で」「家の外で」という軸の2軸に整理しました。その後は、互いに見せ合い、共通点探し。研究員一人ひとりの「好きな時間＝趣味や特技」が町中で生かせるように、これからもプロジェクトを進めていきます。



9 月ラボのご案内

開催日 >> 2016.9.24 Sat 13:30-16:30 場所 >> 水甚

テーマ >> 『阿武町の魅力を伝えよう編』第1弾

ワークショップ形式で、魅力的な情報発信の例を学び、私たちの活動に生かせるポイントを探ります

事務局 >> 役場総務課企画広報係 tel 2-3111 ニュースレター編集 >> 株式会社 studio-L